

広報 しばた



台風19号で被害に遭われた皆さまに心より
お見舞い申し上げます。

災害対応においては、自主防災組織、柴田
消防署、柴田町消防団や自衛隊など数多くの
関係機関からご支援、ご協力をいただきました。
感謝申し上げます。

今後、被害を受けた皆さまの生活支援や災
害復旧を速やかに進めてまいります。

柴田町長 滝口 茂

10月12日~13日 台風19号が町を襲う



台風19号による豪雨災害

10月12日(土)に過去最大級の勢力で本州に上陸した台風19号は、広範囲に大雨をもたらし、柴田町内にも13日(日)未明にかけて、大雨が降り、大雨特別警報が発表(12日(土)午後7時50分)されました。降り始め(11日(金)午後7時)からの総雨量は、365mm(入間田観測所)となり、昭和61年の8・5豪雨に次ぎ、観測史上2番目の雨量となりました。

町内では、床下浸水、床上浸水、土砂崩れ、水田や畑の冠水、道路冠水など、至るところで甚大な被害が発生しました。

また、町内9カ所に設置された避難所には、ピーク時で1,373人の方が避難するなど、住民のみなさんは自宅や避難先で不安な時間を過ごされました。

今回の台風19号がもたらした被害の状況などについて報告します。

被害に遭われた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

岡総務課 Tel 5512111

○主な経過

10月11日(金)

16:00 ・災害警戒本部を設置

10月12日(土)

13:00 ・町内6カ所に避難所を設置

13:30 ・災害対策本部（1号配備）を設置

14:30 ・避難準備・高齢者等避難開始

14:56 ・大雨警報発表

17:50 ・土砂災害警戒情報発表

19:50 ・避難勧告を発令

・大雨特別警報発表

10月12日(土)

20:00 ・災害対策本部（2号配備）を設置

20:20 ・避難所を2カ所追加
（船岡中学校、槻木小学校）

20:30 ・避難指示（緊急）を発令
・災害対策本部（3号配備）を設置

22:00 ・避難所を1カ所追加（船迫小学校）

10月13日(日)

11:52 ・洪水警報発表

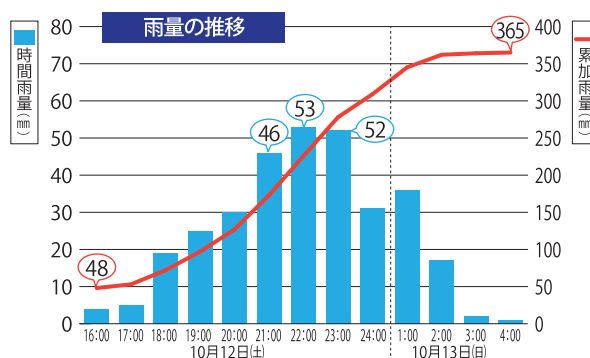
○被害状況（10月18日(金)時点）

- ・住宅などの床下・床上浸水 約700棟
- ・農道、林道、ため池の法面崩れなど53カ所

- ・町道、河川の法面崩れなど47カ所
- ・水稻倒伏 3,190アール（10月17日(木)時点）

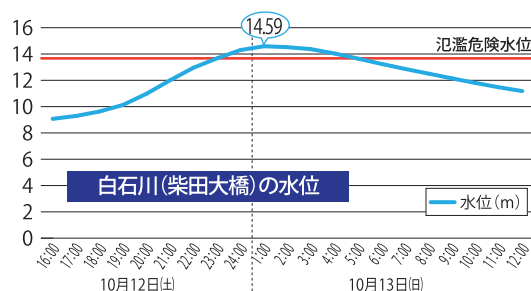
○雨量の状況

雨量 (入間田観測所)	降り始めからの総雨量 (10/11(金)19:00から)	365mm
	24時間の雨量 (10/12(土)4:00から 13(日)4:00まで)	359mm
	1時間最大雨量 (10/12(土)21:00から 22:00まで)	53mm



○河川の状況

白石川（柴田大橋）	14.59m（10/13(日)1:00） ※氾濫危険水位 13.70m
阿武隈川（角田市笠松）	17.48m（10/13(日)5:00） ※氾濫危険水位 17.00m



○避難所の状況

避難所名	ピーク時の避難者数 (10/13(日)3:00)	開設時間帯	避難所名	ピーク時の避難者数 (10/13(日)3:00)	開設時間帯
船岡生涯学習センター	87人	12日(土)13:00～ 15日(火)18:00	船岡体育館	184人	12日(土)13:00～ 13日(日)10:00
船迫生涯学習センター	289人	12日(土)13:00～ 14日(月)9:00	船岡中学校	247人	12日(土)20:20～ 13日(日)15:30
槻木生涯学習センター	153人	12日(土)13:00～ 14日(月)9:00	槻木小学校	104人	12日(土)20:20～ 13日(日)9:00
農村環境改善センター	87人	12日(土)13:00～ 13日(日)17:00	船迫小学校	204人	12日(土)22:00～ 13日(日)9:00
西住児童館	18人	12日(土)13:00～ 13日(日)11:00	計	1,373人	



①



①



②



①

- ①大規模な浸水被害を受けた中名生・下名生・剣崎一带
- ②ポンプによる排水を行う西住地区
- ③風雨の影響で折れた白石川堤の桜の大木
- ④一時は氾濫危険水位を超えた白石川



④



③



②



①



②

- ①水田が広範囲にわたり冠水した若葉町付近
- ②土砂崩れや倒木が見られた太陽の村へ通じる林道、農道



2

1

- ①道路に土砂が流出し、除去作業中の林道田中線
- ②土砂崩れが発生した富沢地区の牛舎の裏側
- ③法面の崩落拡大を防ぐためにブルーシートが張られた葛岡山公園
- ④大量の土砂が道をふさいだ林道雨乞線
- ⑤刈り取った稲も被害を受けた葉坂地区付近
- ⑥槻木西から松ヶ越付近の大規模な冠水



4



5



3



6



4



3

- ③自衛隊による救助活動が行われた東船迫地区
- ④船迫朴木から槻木駅西付近までの水田が広く冠水
- ⑤水が引き、道路に泥が堆積した跡が残る西船迫5号公園付近



5



3

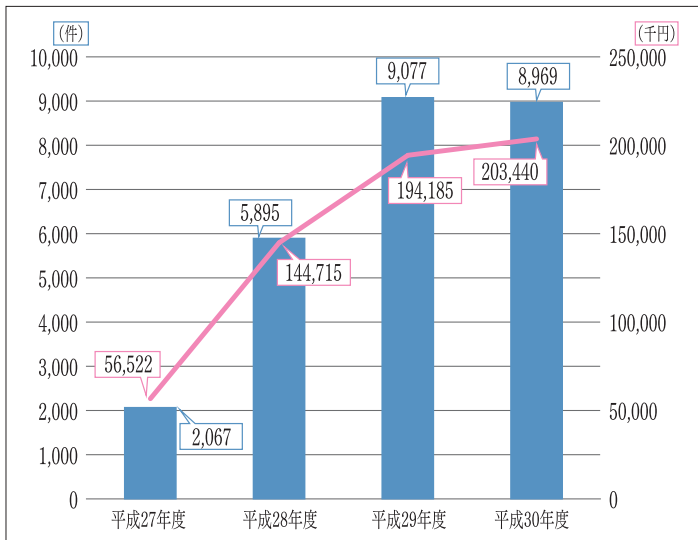


ふるさと柴田応援寄附金（ふるさと納税）

自分のふるさとや応援していきたい自治体に、だれでも寄附することができます。ふるさと納税制度。昨年度も、この制度を通して、たくさんの方の応援をいただきました。

問 まちづくり政策課 Tel 54-2111

寄附件数および寄附金額の推移



平成30年度ふるさと柴田応援寄附金申し込み用途別一覧

用途	件数	寄附金額
1 桜のまちづくりに関する事業	796件	18,075,000円
2 教育に関する事業	790件	17,640,000円
3 福祉に関する事業	431件	9,745,000円
4 まちづくり(地域づくり)に関する事業	256件	5,650,000円
5 総合体育館建設に関する事業	47件	1,135,000円
6 図書館建設に関する事業	99件	7,340,000円
7 学校給食センター建設に関する事業	188件	3,925,000円
8 自治体におまかせ	6,362件	139,930,000円
合計	8,969件	203,440,000円

全国から寄せられる多くの応援

全国各地に柴田町を応援してくださる方がたくさん

いらつしやいます。多くのみなさんから、柴田町に対する思いを寄附という形で届けてもらっています。平成30年度に全国のみなさんから寄せられた寄附の件数は、8,969件で、金額は、2億344万円となり、前年度より約900万円増加しています。柴田町では、寄附をしていただく方に、寄附の使い道として7項目の中から選

択してもらいます（選択しない場合は町が用途を決定）。寄附金は、選択していただいた項目に関連する事業に活用させていただきます。町の大切な財源となっています。また、寄附をしていただいたお礼として、お礼状とともに、町内の事業所などにご協力いただき、町の特色を贈呈し、全国に町の魅力を発信しています。

平成29年度ふるさと柴田 応援寄附金の使い道

平成29年度に全国のみならずから寄せられた寄附金は、平成30年度の事業に活用させていただきました。

平成29年度寄附金額合計
1億9,418万5,008円

○桜のまちづくりに関する事業

町が誇る桜を、将来にわたり柴田町に住む人、訪れる人に楽しんでもらえるよう、桜樹の保護・育成に関



しばた桜まつりに活用

する事業や、交流事業の実施などに活用し、桜のまちづくりによる「花のまち柴田」をPRすることができました。

活用金額

1,246万5,008円

○教育に関する事業

児童、生徒たちの教育効果を高め、児童生徒の基礎的・基本的な学習理解を促進するための教育環境づくりなどに活用しました。

活用金額

1,844万5,000円



ICT教育推進のため、小中学校にパソコンなどを整備

○福祉に関する事業

誰もが「安心・安全に暮らせる地域づくり」を推進するため、町内で地域福祉活動に携わる団体や、町内福祉施設などと協働して福祉を身近なものに感じ、より関心と理解を深める社会福祉推進事業に活用しました。

活用金額

952万5,000円

○まちづくり（地域づくり）に関する事業

住みよい地域づくりを推進するため各地区の地域計画に基づく地域づくり交付金事業として、地域づくりの支援に活用しました。

活用金額

594万円

○総合体育館建設に関する事業

総合体育館建設のためのスポーツ振興基金に積み増しを行いました。

活用金額

110万5,000円

○図書館建設に関する事業

図書館建設のための図書館建設基金に積み増しを行いました。

活用金額

737万5,000円

○学校給食センター建設に関する事業

学校給食センター建設のための学校給食センター建設等整備基金に積み増しを行いました。

活用金額

415万5,000円

○自治体におまかせ

交通死亡事故ゼロを目指し、交通事故発生抑制のための環境整備、安全で安心して楽しめる公園遊具の設置や修繕、歴史資源周辺整備などに活用しました。他に自然休養村「太陽の村」事業、白石川千桜公園の整備に活用しました。

活用金額

1億3,517万5,000円



歴史資源（船岡城址公園二ノ丸 絹引きの井戸）周辺の整備

これからも、町の将来像である「笑顔があふれ 誇りと愛着を育む 花のまち」を目指したまちづくりに取り組み、柴田町のタウンセールスを積極的にを行い、全国に魅力を広めていきます。

そして、柴田町をふるさととして誇りに思ってもらえるように、柴田町のファンが増え続けるように、柴田町とつながるみなさんを大切にしていきます。



柴田町長 滝口 茂

人手不足のために、コンビニでの24時間営業が難しくなってきました。人手不足は介護現場でも、農林水産業や建設部門などでも深刻化してきています。

そこで、緊急措置として、外国人受け入れ拡大のため、出入国管理法が改正され、今年4月1日から施行されました。

その内容は、一定の技能と日本語能力のある外国人に対し、「特定技能」という新たな在留資格を与え、人手不足が深刻な14業種を対象に、外国人労働者の受け入れを可能にするようにしたものです。今後5年間で、これまで認められてこなかった単純作業に従事する外国人労働者が、34万5千人も入国することが予測されています。

確かにこの改正で、経済活動に関わる人手不足が解消されるようになるかもしれませんが、しかし、残念ではありませんが、地域の人材不足は全く考慮されておられません。現在、自治体や地域においては、災害から住民を守る消防団員や、地域のセーフティネットの役割を担っている民生児童委員、地域のもとめ役である地区役員へのなり手がなく、困っているのが実情です。

人手不足の解消問題

このように、地域のコミュニティ力が低下している中で、さらに、多くの外国人が一気に入ってきた場合、地域住民との共生が図れるのかどうか、少し心配になってきます。外国人が増えている自治体や地域では、文化や言葉や宗教の違いからくる揉め事や、技能実習生と雇用主とのトラブルが起きたり、外国人の子どもたちの教育や医療に対する新たな課題を抱え困惑しているのが現状です。

これまで、日本は、比較的外国人の受け入れに寛容で、言葉や文化の壁を乗り越え、地域社会の一員として温かく迎え入れてきました。

しかし、今回の改正により、その包容力を超える外国人がやって来るとなった場合、今だ、地域住民の心構えや、自治体や地域社会の受け入れ態勢が、整っていないことが気になります。そのため、ちよつとしたトラブルの発生で、外国人への嫌悪感が広がらなければと思っています。

今後、人付き合いや、近所付き合いが希薄化している地域コミュニティを再生しながら、さらに新たな外国人を受け入れる「共生社会」の実現を目指していくためには、地域でのお世話ができる優秀な人材の確保が最優先されなければならないと思っています。

広 告

広 告

広 告

広 告

まちかど NEWS

期間中は17,200人もの来場者で賑わいました。



ライトアップは公園内2カ所で行われました。

第7回しばた曼珠沙華まつり NEWS

しばた曼珠沙華まつりが9月14日(土)から10月6日(日)まで開催されました。

今年は開花が遅れたため、まつりの開催期間を1週間延長して行われ、25万本もの曼珠沙華が船岡城址公園を赤く染め上げました。

また、ライトアップを行う夜間鑑賞デーも開催され、ライトの光に照らされた曼珠沙華を見ようと、夜間にもかかわらず、多くの方が訪れていました。

「柴田町と柴田町内郵便局及び大河原郵便局との包括連携協定」締結 NEWS

10月2日(水)、町と柴田町内郵便局および大河原郵便局との間で包括連携協定が締結されました。

この協定は、郵便局の地域に密着したネットワークを活かし、子どもや高齢者の見守り、不法投棄などの情報提供のほか、災害時の対応や地域の活性化に向けて、相互の連携強化を目的としています。

日本郵便株式会社古屋正昭東北支社長は、「郵便事業を活用して、花のまち柴田PRの一助となる発展的な施策を展開していきたいと思えます」と述べられました。

協定を取り交した古屋東北支社長(中央左)と滝口町長(中央右)。



受講者から好評だった自動ブレーキ体験。

高齢運転者交通安全講習会

9月30日(月)、仙南自動車学院で高齢運転者交通安全講習会が開かれました。

高齢ドライバーの交通事故抑止を目的に、大河原警察署と仙南自動車学院の協力のもと、運転技術体験や先進技術搭載車の試乗体験などが行われました。

講習会に参加した六戸五郎さん(北船岡88歳)は、「運転免許証の自主返納が必要か確認しようと思いを受講しました。講習で学んだことを実践して安全運転を心がけていす」と話していました。

広告

広告



こうほう 文芸

短歌

プールから聞こえる子らの歓声に
みやぎの萩が静かにゆれる
船岡 臥竜の娘

長男が家を建てたとメールあり
訪ねてみれば洋風家屋
船岡 可沼 妙子

台風や自然の驚異さからえず
ハウスもハートも痛みつけ
西船迫 下浦 智子

稲刈と遠く孫らの鼓笛隊
風が運ぶよ香と元氣
本船迫 森田 眞六

級友とお思い出多し「昔っこ」
老い深むらし秋を語らふ
船岡 伊藤タイ子

ほんのりと優雅な香りただよいて
ふと気づかされ木犀の花を
船岡 沢田 順子

川柳

婆さんが俺を見限り孫頼り
四日市場 鳥井崎七十老

検診で結果オーライ待ちたいな
西船迫 安ヶ平良三

居たんだね金の菓子折もらう人
槻木 村上 紫寿

鍬使い右も左も出来た夫
船岡 阿部美代子

どこからか秋のかおりでホツとする
船岡 小林 夢子

俳句

かまきりとにらめっこしてわれの負け
西船迫 佐藤 厚子

デビューです令和元年敬老会
船岡 可沼 妙子

松手入れ剪定技術は奥深し
槻木 平間 三郎

袴着の馳けのぼりたる銀河系
石母田星人

回覧の小さき印や冬はじめ
鎌形 清司

青沼へ傾ぐ通草の重さかな
齋藤 善則

枯蘆の青の世界や五色沼
鈴木 三山

波音を秘めたる小石雁の空
鈴木 清子

冬月や生まれたてなるけもの道
鈴木 幸子

冬の草青しビル間の寸土かな
相馬カツオ

七五三利き手の違ふ兄弟
峠 三枝子

七年の晴れやかにして七五三
吉田 啓子

秋の夜や鈴の音遠く澄み渡る
西船迫 安ヶ平奈津枝

秋半ば心浮き立つ絶景に
船岡 安藤 節子

俳句・川柳・短歌に興味があり、こうほう文芸に載せたい方は、はがきなどで11月13日(水)まで応募ください。 図 まちづくり政策課 ☎54-2111

広 告

広 告

広 告

広 告

我が校
の
誇り



船迫中学校

船迫中学校では、生徒たちは常に「チーム迫中」を意識し、一人一人が迫中生であることに誇りをもつ「迫中プライド」をもって諸活動に真剣に取り組んでいます。また、学校支援ボランティア（しばたっ子応援団）や関係機関、小学校・高校・大学から、日ごろ、授業や諸活動にご協力いただくことで、地域とつながり、深い学びを実現できています。

1 生徒たちによる手づくりの迫中祭

迫中祭とは、生徒たちが一番楽しみにしている体育祭のことです。今年で5回目となりましたが、仙南地区で運動会・体育祭を行っている中学校はほとんどないため、手探りの状態でここまで来ました。生徒たちは学級対抗・縦割り対抗の種目で作戦を考え、全力で取り組みます。学年ごとの表現活動では、グラウンドいっぱい広がってダンスなどのパフォーマンスを見せてくれます。特に、3年生のパフォーマンスは見る者を圧倒し、感動的です。

今回は、できるだけ教師に頼らず、自分たちの力で迫中祭をつくり上げることが目標に努力し、「チーム迫中」として大きな達成感を得ることができました。



2 「しばたっ子応援団」の支援による深い学びから地域貢献活動につなぐ



しばたっ子応援団から支援していただいた活動は、全校生徒で校地内に咲くラベンダーを刈り取り、ラベンダースティックやポップリを作る「ラベンダー活動（今回は修学旅行の自主研修訪問先にラベンダースティックを贈りました。）」、2年生の「職場体験活動」、3年生の「浴衣着付け教室」、「琴演奏」、「民謡」、「柴田町に係る歴史」、「俳句教室」などがあり、生徒は深い学びを体験しています。

中でも、2年生の「竹箒活動」では、「竹を切る」・「竹箒を作る」活動の後、作った竹箒で近隣の公園、保育所、歩道の落ち葉掃きをし、地域貢献活動を行います。

生徒たちはこれらの活動を通して、多くの地域の皆さまと触れ合い、地域とのつながりを強くし、大人とのコミュニケーションも堂々とできるようになっています。

3 小学校・高校・大学との連携



船迫小学校とは、「中3による合唱コンクール演奏曲披露」、「部活動見学（小6と小5）」、「部活動体験（小6）」、「小・中連携合同英語学習（小6と中2）」を行い、中1ギャップの解消に大きな効果を発揮しています。

仙台大学とは、「未来先生」として迎えた大学生に「部活動支援」、「保健体育の授業補助」、迫中祭での「各競技の補助」などを行ってもらっています。

高校とは、大河原商業高校教員による職場体験学習前の「マナー講座」、県中総体前には柴田高校陸上部から指導を受け、技術の向上につながった「部活動連携」、そして、今年初めて合唱コンクールに向け意欲と技術の向上を図るため、「聖ウルスラ学院英智高校合唱部によるコンサートとワークショップ」を行いました。ワークショップでは、合唱部員から合唱についてのアドバイスをもらい、大きな効果がありました。

〔船迫中学校長 曾根秀輝〕

広 告

広 告

培った技術を武器に信頼を得られる仕事人を目指します

株式会社渡辺電業

大石 隆晃さん（35歳）

今回は、主に工場やビル、学校などの電気工事を行っている株式会社渡辺電業の大石隆晃さんを紹介します。



入社4年目の大石さんは高校卒業後、別な職業に就いていましたが、東日本大震災で停電を経験して電気がどのようになっているかというところに興味を持ち、通信工事の会社で経験を積み、渡辺電業へ入社しました。

「仕事は、工場の電気設備工事、受電設備の改修工事を行っています。昨年、第一種電気工事士の資格を取得し、できる仕事も増えてきました。資格や技術、知識が自身の武器になることを実感しています」と話します。

仕事を行う上で心掛けていることを伺うと、「些細な事でも自分に任せてもらったのならば、求められたものプラスαでお客さまへお返しすることを心掛けています。それは仕事のスピードや仕上がりなどさまざまですが、この人に任せれば大丈夫と言っていただけける仕事をしたと思っています」と

仕事への情熱を話してくれました。会社の中で中堅になる大石さんは、後輩へ指導する機会も増えてきたそうで、「実際に指導する立場になって気付いたのが、自分と相手、それぞれ考え方が違うことです。考え方が違う相手に対してどのように指導すれば伝わるのか、今は悩みながら模索しています。まずは自分に厳しくしていなければ、指導することはできないと思います」と話してくれました。

今後について、「今は自分に任せてもらえる仕事も増えてきて、とても充実して仕事をさせてもらっています。しかし、それに満足せず、学べることは今の仕事に直接関係無くても貪欲に学び、私の理想とする『何でもできる電気屋さん』に近づきたいと思っています」と話してくれました。その向上心でこれからがんばってください。



高圧設備の鋼材を加工している大石さん。



株式会社渡辺電業

柴田町大字中名生字熊野57-2
TEL 86-3882

平成元年丸森町で創業。平成20年3月に柴田町へ移転。工場や公共施設の電気工事やメンテナンスを手掛ける。従業員9人。

人口と世帯数
(令和元年10月1日現在)



37,687人
(前月比78人減)



18,812人
(前月比41人減)



18,875人
(前月比37人減)



15,843世帯
(前月比35世帯減)

※平成24年7月9日の住民基本台帳法の改正に伴い、外国人を含む人口と世帯数となります。